



カヤネズミ

かわはく No.65

CONTENTS

令和元年度特別展案内「根・子・ねずみ～ネズミワールドへようこそ～」	2
開催案内：スロープ展 特別展サテライト展示「ネズミの本を紹介します」	3
開催報告：5月企画展「東京藝術大学学生による『荒川・利根川・多摩川』作品展」	4
開催報告：かわはく体験教室「りんぶん転写～チョウのはね模様をコピーしよう」	5
開催報告：荒川ゼミナールⅠ川を知るウォーキング 「元荒川を歩く3 ～瀬替え前の荒川の終わりを見に行こう～」	5
学芸員コラム：「石の上の‘ぬるっ’の正体は？」	6
日本一の大水車改修工事レポートその4	6
大水車組立見学会と水車解説を開催しました	7
イベント情報コーナー8・9・10・11月	8



開催案内

令和元年度特別展 根・子・ねずみ ～ネズミワールドへようこそ～

開催期間: 令和元年7月13日(土)～令和元年9月1日(日)
会場: 本館 第二展示室・第一展示室 スロープ展示(サテライト展)

ネズミは人の生活の場にも生息することから身近な野生動物であり、イメージも良し悪し双方持たれている動物です。日本では古代より穀物倉庫のネズミ返しや、神話や童話に登場するネズミなどから、歴史上長きにわたる人との関わりがあります。本展示を通じて、ネズミが人の生活の近くに生息していることだけでなく、その生態や人との関わりなど、ネズミのことをより多く知っていただければ幸いです。

特別展の主なみどころ

(1)ネズミと人との関わり(神話・絵馬・ネズミ除け)

誰もが知っているネズミとしては、お正月になると必ず話題になる干支に登場します。十二支のいちばん初めの「子」はネズミのことです。古代では「古事記」にオオクニヌシを救った「根の国」のネズミが登場し、やがてオオクニヌシは大黒天として信仰の対象となり、ネズミは福の神の使いとなります。これらにまつわる伝承を、古文書や絵画、民俗資料で紹介します。「ねずみ草紙図屏風」は、ネズミの結婚を主題にした物語を、江戸中期の狩野派絵師、狩野彰信が描いた枕屏風です。

(2)ネズミの生態(ネズミの仲間標本、ネズミの天敵標本、ネズミの化石等)

世界中に分布する家ネズミは古くから穀物を荒らす害獣とされ、嫌われる存在でした。しかし、野生種のネズミは自然生態系の一員として大切な存在といえます。日本国内では野生種のネズミは10種以上分布し、日本固有種だけでなく国指定の天然記念物に指定されている種もありながら、その存在はあまり知られていません。本展では、埼玉県内に生息する野生種のネズミを中心に、ネズミに近い仲間や世界の珍しいネズミも剥製標本・骨格標本などで紹介します。また、生態系の一員として獣や鳥などネズミの天敵たちも剥製標本などで紹介します。

関連イベント情報

①「ネズミトーク」

日時: 7月27日(土)と8月17日(土)

1回目11:00～12:00

2回目13:30～14:30

場所: 川の博物館 リバーホール

講師: 自然の博物館学芸員

定員: 各回30名程度(事前申込不要)

費用: 無料

内容: 学芸員による展示解説と標本を使った楽しいトークです。

②「ネズミ」クイズラリー

日時: 8月3日(土)と8月18日(日)

9:00～15:00

場所: 川の博物館敷地内各所

定員: なし(事前申込不要)

費用: 無料

内容: 川の博物館内にて、ネズミのクイズを解きながら、複数のポイントを廻り、ネズミの生態などを学びます。

③夏休みこども講座

「ネズミワールドへようこそ！」

会場: 埼玉県立久喜図書館

日時: 7月31日(水)

1回目10:30～11:30

2回目13:30～14:30

講師: 自然の博物館学芸員

川の博物館学芸員

定員: 各回140名(事前申込不要)

費用: 無料

※埼玉県立久喜図書館との連携イベント



写真1：絹本着色 ねずみ草紙図屏風 (所蔵・写真 埼玉県立歴史と民俗の博物館)



写真2：カヤネズミ



写真3：カヤネズミの巣 (写真 大石 章 氏、協力 飯能市立博物館)

開催案内

スロープ展(サテライト展示) 「ネズミの本を紹介します」

開催日：令和元年6月21日(金)～9月1日(日)

本展示は7月13日から9月1日まで開催の特別展「根・子・ねずみ～ネズミワールドへようこそ」のサテライト展示として、「ネズミ」にまつわる絵本や児童書に注目しました。衛生害獣としていわゆる家ネズミは忌み嫌われる面もありますが、一方で、身近で親しみやすい動物として絵本や児童書に数多く登場します。日本で広く知られている「おむすびころりん」などのネズミが登場する昔話は、現代でも絵本となって読み継がれています。

絵本が広く普及した戦後以降、ネズミが登場する絵本からはいくつものベストセラーが生まれ、世代を超えてシリーズ化された人気作品も多く存在します。また、世界各国でも同様にネズミが登場する絵本が出版されています。数ある書籍の中から日本・世界のベストセラー作品、昔話、

ネズミの生態に目を向けた児童書や専門書を紹介します。



スロープ展の様子

(研究交流部 藤田宏之・
埼玉県立自然の博物館 環境担当 奥村みほ子)



開催報告

5月企画展「東京藝術大学学生による『荒川・利根川・多摩川』作品展」

開催期間:令和元年5月25日(土)～6月16日(日)

会場:埼玉県立川の博物館 本館 第2展示室 ほか

5月25日(土)から6月16日(日)まで、東京藝術大学(以下、藝大)デザイン科の学生の皆さんが、荒川・利根川・多摩川をテーマに制作した作品の作品展を、当館第2展示室をメイン会場に開催いたしました。

今年で3回目の開催となる、本企画展。この作品展は、藝大のデザイン科の1年生(現・2年生)の皆さんが、河川について、「歩いて」、「綿密に」調べ、「感じたこと」を基に制作された作品の作品展で、今年度は荒川水系・利根川水系・多摩川水系の河川を調査し制作された作品、全36点を展示させていただきました。永代橋について詳しくなるテレビゲーム作品をはじめ、アニメーション作品、絵本作品、江戸城外濠の変化をたどることのできるプロジェクションマッピング作品、船の帆を象ったスクリーン、荒川の堤防をモチーフとしたテーブルなどなど、今年も展示室内は制作者の個性と創造性にあふれた作品で埋め尽くされました。

当館は、展示した作品を制作した課題、「調べる」の指導補助を担当させていただいており、その縁もあって本企画展を開催させていただいております。

また本展示は、藝大の学生の皆さんにとって、現場での「学びの場」としても役立ててもらえるように、展示開催にあたって制作する広報媒体(ポスターやチラシ)のデザインや、解説パネル・キャプション等のデザインも、学生の皆さんが担当しています。今年も、石田己和さん、小笠原幸永さん、高山七虹さんの3名がデザインの担当をしてくれました。

また作品の設営(飾り付け)や撤収(片付け)も、学生の皆さんが自分自身の手で行っています。当館のスタッフは、学生の皆さんによるこれら展示準備の手伝いや、学生の皆さんが展示の準備を通じて多くの事を学び、これからの創作活動につなげてもらうようにする、そのサポートが主な担当になっています。

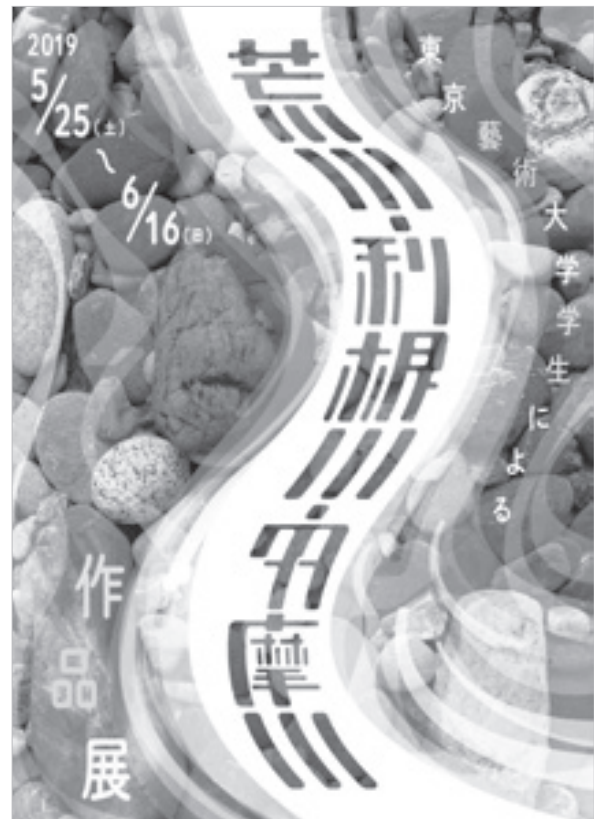
当館は開館以来、博物館として、体験学習、つまり体験しながら学んでもらうという点に特に力を入れて取り組んでまいりました。藝大の学生の皆さんにも、本展示を通じて、今後の創作活動に

つながるヒントなど、何かしらつかんでいただけたのではないかと感じています。

最後になりましたが、藝大の学生の皆さん、今年もステキな作品を展示していただきありがとうございました。これからも個人個人の個性を生かした作品の制作を続けてください。そしてまた作品ができましたら、ぜひ見せてください。私でよければ、出来上がった作品にいつでもコメントしますよ。



展示室の様子



今年度のチラシ(表面)のデザイン

(研究交流部 羽田武朗)



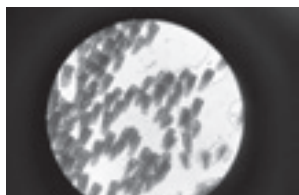
開催報告

かわはく体験教室 りんぷん転写～チョウのはね模様をコピーしよう

開催日：平成31年4月20日(土)

4月20日(土)に上記イベントを開催しました。このイベントは多摩六都科学館に協力いただき、2名の講師をお招きしての講座でした。

まずチョウのはね模様についてスライドでお話を聞き、りんぷんの役割なども教えてもらいました。そして用意されたチョウのはねを顕微鏡で観察。「りんぷん」とよばれるものがどんな格好をしているのかを確認しました。顕微鏡をのぞいたときには驚きの声もあがっていました。



顕微鏡でのぞいたチョウのりんぷん

そしていよいよりんぷん転写。チョウのはねを体から外すことに少し抵抗を感じながらも、みんな果敢に(?)挑戦していました。次にロウを塗っ

た紙にチョウのはねをはさみ、紙の上から葉さじでこすります。紙をひらくとチョウのはね模様が写っている、というわけです。最初は白い紙を使用しましたが、黒い紙でやってみると、色がより見やすいこともわかりました。



細かい作業にも挑戦

予想以上にきれいに転写でき、また顕微鏡でのぞく世界にも感動した様子がかがえました。ご参加のみなさん、講師の先生、ありがとうございました。

(研究交流部 森圭子)

開催報告

荒川ゼミナール I 川を知るウォーキング 「元荒川を歩く3 ～瀬替え前の荒川の終わりを見に行こう～」

開催日：平成31年4月21日(日)

現地を実際に歩いて見学して河川を学ぶイベント、「荒川ゼミナール」。今年度も引き続き開催中です。

今年度1回目は、「元荒川を歩く3」と題して、現在の元荒川の終点である、中川との合流点周辺を歩きました。

この場所、歴史的に見るとどんな場所になるかという、ものすごく簡略化した説明をした場合、自然のままに河川が流れていた頃の(利根川の東遷・荒川の瀬替え前の)、「荒川」と「利根川」の合流点付近ということになります。実際は、徳川家康の江戸入府以降、江戸時代の初めに複雑な経緯で川の流れを変えていったので、この表現が決して「正しい」というわけではありませんが、端的に表現すると、このようにも表現できると思います。

今回が、元荒川沿いを歩くイベントの3回目です。1回目と2回目は、荒川の瀬替えが行われた場所、現在の熊谷市久下周辺(元荒川の起点周辺)を散策しました。計3回行うことで、現在の元荒川の流れの、始まりと終わりを見学したということになりました。

今回は元荒川と中川の合流点以外にも、江戸時代

に河川改修が行われ、川が流れなくなった場所が現在どのようになっているか、その変化を現地で見学したり、自然堤防や河畔砂丘等の地形の違いと、地形の違いによる土地利用の違いについて見学したり、また巨大な調整池とともに誕生した越谷レイクタウンもあわせて見学していただきました。

今回で、川の始まりと終わりの見学が終了した、元荒川。次回は川のまん中、「中流」辺りの見学に出かけてみたいと考えています。次回開催をお楽しみに！



現在の「元荒川」と「中川」の合流点 ≡ かつての「荒川」と「利根川」の合流点

(研究交流部 羽田武朗)



学芸員コラム

「石の上の‘ぬるっ’の正体は？」

暑い季節になりました。川遊びが気持ちいい季節です。川遊びをするとき、石の上で足を滑らせた経験を誰もがしていることでしょう。こういった石は表面が茶色く、ぬるっとしています。

この‘ぬるっ’の正体を、見たことはありますか？歯ブラシでかき取って顕微鏡で見ると、0.1mmにも満たない小さな小さな微生物の集まりであることがわかります。この中によくいるのが、珪藻けいそうです。彼らの形は、円形、半月形、ひし形や細長い針のようなもので、様々です。黄色や茶色の葉緑体を持ち、光合成をして生きています。‘ぬるっ’が茶色なのは、珪藻が集まっていたからです。茶色のぬめりをよく見ると、小さな気泡がついていることがありますが、これは珪藻がさかんに光合成をして出したものです。光合成をする生き物と聞くと、草木のように動かないものと思われがちですが、光合成をする小さな生き物は活発に動くものも多くいます。珪藻のガラス質の細胞壁には、スリットやたくさんの小さな穴があります。そこから粘液を出して、石に付着したり、すべるように動いたりします。顕微鏡でも、するすると動く珪藻の動きを見ることができます。

珪藻は、水中の生き物の重要な餌になっています。珪藻を食べる川魚として有名なのがアユです。

アユは、石の表面に付着している珪藻などを口の端でこすり取って食べます。アユに独特な香りがあるのは、珪藻などの藻類を食べるためとも言われます。また、人の役にも立っています。大昔に湖や海などで大量発生した珪藻が堆積して化石となったものを珪藻土とといいます。化石として残るのは、珪藻のガラスの細胞壁です。無数の小さな穴が開いたガラスの殻の塊である珪藻土は、ろ過材として、また吸湿性のある建材として利用されています。ここ数年では、この吸湿性を利用した珪藻土マットも普及しています。

川に行ったら茶色の‘ぬるっ’を見たら、足元に注意しながら、小さな小さな珪藻にも意識を向けてみてください。



荒川の珪藻

(研究交流部 三瓶ゆりか)

日本一の大水車改修工事レポート — その4 —

大水車改修工事も佳境に入り、5月12日(月)に大水車の心臓部である軸の設置が始まりました。大型クレーンを使い軸受が設置され、その後、大水車の木部を取りつけるために12tの重量がある軸が設置されました。

軸が設置されると、最初に水車の大きさに関係する一番長い柱「ゴコウ」が組まれました。「ゴコウ」は、片側32梁、両方合わせると64梁あり、継手がない一本柱です。左右のゴコウを繋ぐ「繋ぎ梁」は、百数十本の角材が使われています。「ゴコウ」が組まれた後、水車を回すための水受けが取り付けられました。



軸受けの設置



軸の設置

木材の取付けが終わると各ボルトの締め付けを行い、水が掛かってもさびないように塗装を行いました。

いよいよ、完成に近づき大水車の全容が見えてきました。最後の仕上げまであと少し時間がかり、大水車が回転した時の左右のバランスや回転にムラがないか等、完成前に行わなければならない調整が沢山あります。

さあ！完成まであと少し！7月28日(日)のお披露目まで、職人さんたちは頑張ってくれています。



「ゴコウ」が組まれた様子



「水受け」の取り付け完了

(経営管理部 高石勉)



開催報告

大水車組立工事見学会・ 水車見学会を開催しました。

開催日：令和元年5月18日(土)

100年かけて飯能の山で育てた高さ約20m、根元の太さ約60cmの西川材(ヒノキ)が切り倒され、製材されて、かわはくの大水車に生まれかわります。2019年5月13日(火)、いよいよ大水車の組立工事が始まりました。



写真① 組み立てを待つ木材

大水車は、完成すると直径24.2mの日本一の大きさになります。仮組してきた「ゴコウ(クモデ)」と呼ばれる構造材を、巨大なクレーンで大水車の中央の位置に設けられた足場までつり上げ、軸に差し込みます。この作業を何度も繰り返すと、水車の形が見えてきます。



写真② 組み上がっていく大水車

5月18日(土)に行われた見学会では、職人さんの解説を聞きながら、大水車の木材がどれだけの大きさなのかを間近で見たり、ヒノキの良い香りを嗅いでもらったりしました。その後、水受けと呼ばれる部品の取り付けの様子も見いただきました。参加者の皆さんは、水受けがゴコウと同

じょうに、巨大なクレーンで足場まで運ばれる様子の写真を撮るなどして、興味深そうに見学していました。



写真③ つり上げられる水受け

工事見学の後、かわはくにある「精米水車」や「コンニャク水車」、川合玉堂が描いた「行く春」の中にある「船車」を、学芸員の解説で見学しました。



写真④ コンニャク水車を見学する様子

大水車は7月28日(日)から回り始める予定です。この日には、秩父屋台ばやしや川越の祭りばやしの演奏で水車の完成を祝います。また、その後、大水車を作る際に出た端材を使ったワークショップや記念品の販売などを予定しています。楽しみにお待ち下さい。

9月21日(土)からは、企画展「水車は日本の原風景だ」も始まります。たくさんの水車に出会うことができるかわはくに、足を運んでくださいね。

(広報担当 若目田葉子)

8月

7/13/土~9/1/日
特別展「根・子・ねずみ~ネズミワールドへようこそ~」

6/21/金~9/1/日
スロープ展「ネズミの本を紹介します」

1/木 かわはくであそぼう・まなぼう
かわはく開館・水の日記念「利き水体験」
時間：①10:00~12:00 ②13:00~15:00
内容：利き水などをしながら、水の性質や大切さを学びます。

2/金 日本一の水車の木材でつくろう!
①水車のオルゴールをつくろう
時間：①10:00~11:00 ②12:00~13:00 ③14:00~15:00
費用：2800円（材料費・講師料）定員：各回10名 ☎
内容：メロディーにのせて、水車が回る仕掛けのオルゴールを作ります。

3/土
18/日 特別展開連イベント「ネズミ」クイズラリー
時間：9:00~15:00
内容：かわはく敷地内のポイントを回り、ネズミのクイズを解きながらネズミについて学びます。

9/金 日本一の水車の木材でつくろう!
②走る！帆掛け船をつくろう
時間：①10:30~ ②11:30~ ③13:30~
費用：500円（材料費・講師料）定員：各回10名 ☎
内容：ゴム動力のスクリーンが付いた帆掛け船を作ります。

16/金 日本一の水車の木材でつくろう!
③木のおもちゃ箱をつくろう
時間：①10:00~11:00 ②12:00~13:00 ③14:00~15:00
費用：2200円（材料費・講師料）定員：各回10名 ☎
内容：木のおもちゃ箱を作ります。

17/土 特別展開連イベント「ネズミ」トーク
時間：①11:00~12:00 ②13:30~14:30
内容：ネズミの生態や展示内容などを解説します。

18/日 かわはく研究室~川・自然・歴史~
「かわせみ河原の石ころ話」
時間：13:30~15:30
内容：かわせみ河原で見つけられる、代表的な石の名前と特徴をお話します。

22/木 かわはく体験教室「伝統漁法体験」
時間：①10:00~12:00 ②13:30~15:30
費用：500円（保険料等）定員：各回20名 ☎
内容：立ち込み釣りや投網など昔から行われていた漁法を体験します。

23/金 日本一の水車の木材でつくろう!
④動く！木のおもちゃをつくろう
時間：①10:00~11:00 ②12:00~13:00 ③14:00~15:00
費用：2300円（材料費・講師料）定員：各回10名 ☎
内容：ハンドルを回すとアヒルの親子が泳ぐように見えるおもちゃを作ります。

9月

9/21/土~11/24/日
秋期企画展「水車は日本の原風景だ」

9/4/水~2020/2/2/日
スロープ展
「水車を見に行こうー埼玉県内で見られる水車ー」

7/土 かわはく体験教室「アゲブネに乗ろう」
時間：13:30~15:30
内容：かつて荒川流域で使用されていた洪水避難・救援用の小型船「アゲブネ」の試乗体験です

8/日 かわはくであそぼう・まなぼう「お月見クイズラリー」
時間：13:30~15:30
内容：お月見にまつわるクイズラリーをします。

15/日 かわはく研究室~川・自然・歴史~「ウナギの話」
時間：13:30~15:30
内容：ウナギの生態、捕獲方法、食べ方、信仰などなど、ウナギにまつわるいろいろな話題です。

21/土
22/日 職人さんに学んで作る~自分だけの工芸品~
時間：10:00~15:00
費用：体験内容によって異なります。
内容：水引のアクセサリやミニ畳づくりなど、ものづくりを体験しよう!

10月

10/木 荒川ゼミナール川施設見学会
「共催イベント 船に乗って荒川探検」
時間：9:30~15:30（予定）
費用：100円（保険料）定員：30名 ☎
内容：岩淵水門から彩湖までを船で上ります。

12/土 かわはく体験教室「砂金探り教室」
時間：10:00~12:00
費用：200円（資料代・保険料）定員：20名 ☎
内容：かつては砂金が採れた荒川で、砂金探りにチャレンジします。

13/日 企画展開連イベント 講演会「水車を旅する」
時間：13:30~15:00 定員：70名 ☎
内容：写真家の河野裕昭氏に、全国各地の水車を取材した状況を写真を交えて話していただきます。

13/日 荒川ゼミナール！川を知るウォーキング
「荒川の堤防探検5 横堤」
時間：10:00~16:00（予定）
費用：300円（資料代・保険料）定員：20名 ☎
内容：現在の荒川を特徴づける堤防の1つ、「横堤」を見学しながら散策します。

14/月・祝 連携イベント「文化の森まつり」
内容：埼玉県比企郡周辺にある13の文化施設が集まってお祭りを開催します。

20/日 かわはく研究室~川・自然・歴史~
「土のはたらきを調べてみようー土と砂のちがいがー」
時間：13:30~15:30
内容：土のはたらきを調べる実験をデモンストレーションで行います。

19/土・20/日・22/火・祝・26/土・27/日
かわはくであそぼう・まなぼう「かわはくでハロウィン」
時間：10:00~16:00 ※材料がなくなり次第終了
内容：ハロウィンを楽しむイベントを館内各所でを行います。

19/土~31/木 かわはくハロウィンウィーク
内容：期間中の土・日・祝日にハロウィンの仮装をして来館した方にはプレゼントがあります。

11月

3/日・祝 荒川ゼミナール！川を知るウォーキング
「入間川を歩く1~入間川の扇状地を歩く~」
時間：10:00~16:00（予定）
費用：300円（資料代・保険料）
定員：20名 ☎
内容：荒川の支流、入間川の扇状地を歩きます。

9/土 企画展開連イベント「武蔵野の水車見学会」
時間：10:00~15:00（予定）
費用：未定 定員：20名（現地集合） ☎
内容：現在も稼働している東京都指定有形民俗文化財「武蔵野（野川流域）の水車経営農家」と、深大寺水車館などを見学します。

14/木 かわはくであそぼう・まなぼう「木の実あそび」
時間：①10:00~12:00 ②13:00~15:00
内容：どんぐりコマやどんぐりヤジロヘエづくりを体験します。

14/木 県民の日イベント「かわはく秋まつり」
時間：10:00~16:00
内容：県民の日は年に一度の施設無料開放日です。各種イベントも行います。

16/土 かわはく体験教室「土の中の生き物を探せ！」
時間：13:30~15:30
費用：100円（資料代ほか）定員：15名 ☎
内容：土の中の生きものを、道具を使って取り出して観察します。

17/日 かわはく研究室~川・自然・歴史~
「川のはたらき・地形・歴史を学ぼう！」
時間：①10:00~11:00 ②11:00~12:00
③13:30~14:30 ④14:30~15:30
定員：各回10名ほど（当日9時より予約受付）
内容：学芸員と一緒にかわはく周辺の地形や川のはたらき、荒川の歴史等について学びます。

23/土・祝
24/日 障がい者ウィークイベント
「こころからだのバリアフリー~はくぶつかんたいけん~」
時間：10:00~15:00
内容：車いす体験や点字体験、自閉症体験などを行います。

ホームページでも紹介しています!

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332
ホームページのフォームからお問い合わせいただけます。



2019年7月31日発行